

中村欣一郎市長の

山椒は小粒でも...

Vol.58

きっかけはニセコ町



私は市長です〜とやるものだから、一瞬みなキョトンとします。面白いことが始まった、みたいな表情をされたり「本物らしいよ」といった声があがるなど、ちよつとしたサプライズを感じてもらえたかもしれませ

まだまだコロナ禍とはいっても、この夏は観光客も戻りつつありました。お盆にはひだまり横の臨時駐車場も3年ぶりに開設されました。この臨時駐車場は鳥羽駅前から少し離れていることもあり、普通ならバスでピストン運行をするところですが、ここは鳥羽ならでは「遊覧船」で送迎します。車1台1000円の駐車料金で、何人乗っても船は往復無料です。すごいお得感ではないでしょうか。



そして私の船内でのアナウンスも3年ぶりに復活しまし

た。そもそもこんなアナウンスをしようと思つたきっかけは、20年ほど前にまちづくりの視察で訪れた北海道のニセコ町にあります。バスで町内の施設を見て回る折、町長が運転手の横に立ち、まるでバスガイドさんのように我々視察団に語りかけたのです。



当時のニセコ町 逢坂誠二町長
現在は国会議員をされております

最前列に座って見ていた私は、かっこいいなと思ひ、以来、ずっと心に残っていました。

一方、写真でわかるように私は普段着ですから、船長の手間取りにしか見えないうえ、それが突然マイクを握って「今日はようこそ鳥羽へ、ありがとうございます〜、実は



今夏新しいネタは、ポケモンのマンホールが鳥羽マルシェと足湯の間に埋め込まれていること。車を止めた臨時駐車場の隣にある市民の森公園には今話題のガリバーがいること。ともにインスタ映えすること、など。子どもに人気があるせいか、この話をする親子で目配せしたり、ひじでつつき合ったりするのが分かります。これからも何度も訪れてくれる鳥羽ファンのみなさんに、いつ来ても新しい魅力をお話してきえるよう頑張らねばと思っています。



市長の船内
アナウンス動画

イコール パートナー シップ

Vol.146



ジェンダーの 視点からの防災

市民課人権・市民交流係

☎ 1126

9月1日は防災の日です。自然災害は、年齢や性別、抱える障がいや病気の有無、国籍の違いなど、さまざまな立場の人に突然襲いかかります。誰もが被災者となる可能性があるので。

地域防災計画には、地域防災活動への参画を進め、防災人材を育成することが明記されており、避難所の運営委員会や話し合いに女性や障がい者、外国人住民のかたなど多様な人が参加することは、これまで表面化されていなかった問題に気付くことができます。

災害時にも誰もが等しく尊重されるためには、多様な視点を持つことが大切です。避難生活に必要な支援は性別や年齢などで異なるため、トイレ、更衣室、入浴設備について、誰もが使いやすい形を考えていく必要があります。また、支援が必要でも、声を上げづらく感じる場合があります。たとえば、生理用品や女性用下着などは女性が配布する、授乳室を確保するなど、それぞれの立場に配慮することが大切です。

しかしながら、防災に携わる女性の割合は十分とは言えない現状です。鳥羽市

さまざまな性に対する理解も重要です。性的マイノリティ(LGBTQ+)のかたは、男女別で配布されている物資を受け取りにくい、家族単位で生活する避難所での同性パートナーと居づらいつなどの問題を抱えることがあります。私たちは、さまざまな性への知識を持ち、いろいろな家族のあり方を認識し、寄り添うことが大切です。

災害に備えて話し合いを重ね、自分や地域でできることを考えてみませんか。